

キタムラサキウニ *Mesocentrotus nudus*



地方名：のな、くろかぜ

生態

- ①寿命：15年程度
- ②成熟：殻径4cm以上
- ③産卵期：7月～10月（水温15～20℃以上）
- ④分布：相模湾、若狭湾以北の本州と北海道沿岸
- ⑤生態：冷水性ウニであり、水温が26℃以上になると、へい死の危険性が高まる。受精後1～2か月間の浮遊生活後に着底し、潮下帯から水深数十メートルにある岩礁や転石帯に広く分布する。コンブ、ワカメ、ホンダワラ類やそれらの流れ藻を摂餌する。高水温期を除き、1日に体重の5%～10%を摂餌し、磯焼けの発生・持続要因となる。

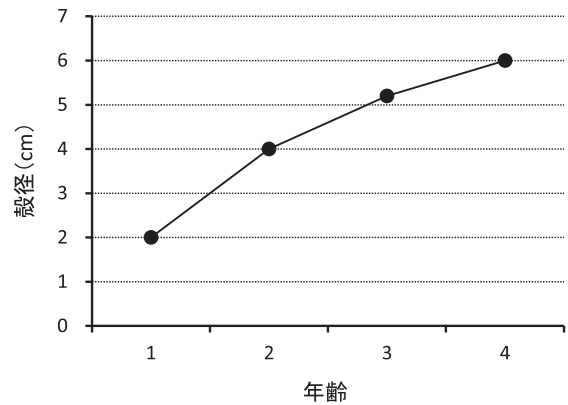


図 青森県におけるキタムラサキウニの成長

主な漁業

県内の各沿岸海域ではほこやたもなどの漁具及び潜水で採捕されるほか、下北半島沿岸ではウニ籠、津軽半島沿岸ではけた曳き網で漁獲される。卵巣、精巣が食用に供されるため、成熟までの季節にあたる春から夏が漁期の中心になる。磯焼け域や深場など海藻が少ない海域では身入りが進まず、商品価値を欠くため漁獲されないことがある。

漁獲の動向と水準

漁獲量は1979年に1,894トン記録した後、2011年の515トンまで減少傾向で推移した。その後、回復に転じたが、2016年から再び減少傾向となった。2024年に微増したものの、2025年の漁獲量は305トンであった。

2025年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

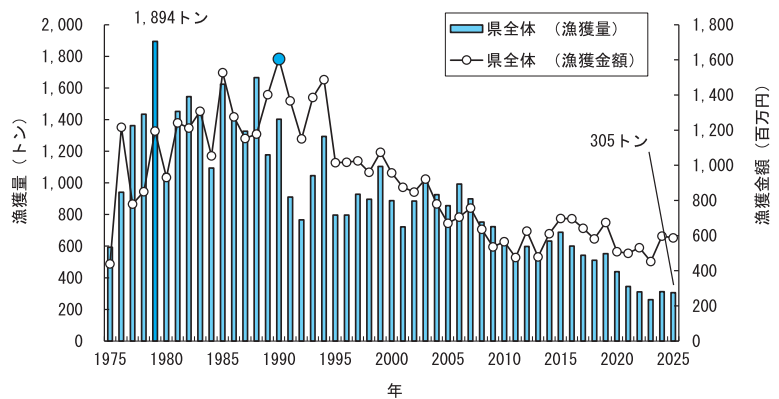


図 青森県におけるウニ類の漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

☆身入りが少ないいわゆる「空ウニ」を雑海藻場に移殖することにより、身入りを高めることができる。同時に、マコンブに対するウニの食害を減らすことができる。

